

平成29年度第2回港区区政会議に関する意見

	意見内容	担当部会
1	<p>うつ病に苦しむ若者や、定年後働く場がない人、知的障がいある人にはその特性を活かして働ける場、認知症の人も働ける場所として空地を活用した農業を提案したいと思います。法人に出来たらベスト。雇用を生み出し、地産地消を目ざし、生徒、児童の給食供給。子どもの食育にもつながる。</p> <p>農場経営のプロを招くか、港区内の地方出身で農業経験者を募集、等々考える。用地としては、元臨港線の跡地利用、難題かも知れない。他にも空地が点在しているように思う。日本各地で天災にみまわれ、野菜・果物の供給が滞った時も、この地は幸いに気候は安定している。又、近頃、故郷に戻り、農業をする人や若者も居る。この住み慣れた便利な港区でそれをする事も可能ではないかと思う。</p> <p>市岡商業高校の跡地も最新の技術を導入し、野菜の水栽培の施設や、しいたけやきのこ類を育てる施設もいいかも知れない。雇用も生まれる。土に触れ、植物の生育を楽しみに働くことは、自律神経を安定させる効果も期待できる。うつ病に限らず精神疾患で職場を辞めざるを得なくなり、失業し、生活保護になる人が多い現状を何とかできないだろうかと考えます。障がいのある人もしかりである。とにかく、希望を見い出せて、働く場があれば薬に依存せず、治せるケースもあるのではないかと日々考えています。薬に頼るしかないように、抗うつ薬・睡眠薬をたくさん服用し、家に引きこもり、太陽光を浴びずに居る人を、何とか外に出て、働く喜びを取り戻せるようにしてあげたいと思っています。すばらしい人材がそこに眠っている気がするのです。</p> <p>又、不登校の子どもや貧困の問題。空家を利用して子ども達の居場所を作ってはどうでしょうか。よい知恵を出し合って子どもたちを守りたいものです。</p>	全体会
2	<p>全ての部会におきまして、行政が目ざすまちづくりを下支えする住民のコミュニティの育成が最大の課題ではないかと考えます。私は、30数年前に家庭を持って以来港区に住んで来ました。港区民として、職場が西区にあり、また子育ても一段落した世代の男性としてなかなか普段からの地域とのつながりを持っていないことを感じております。とは言え、今となっては私自身として港区は大好きな場所です。</p> <p>そこで、現在港区におけるコミュニティというものについて、どこにどんなコミュニティがあり、普段どういう活動があり、誰がそれを担っているか、俯瞰して見たいと思っています。</p> <p>また、コミュニティとは何か、ということを一から考える機会を設けて頂きたく思います。出来れば、港区に限らず、他区の区政会議や取組みとも連携して行くことも視野に入れつつ。</p> <p>そこで得られた具体的な事を基に、ニューヨーク市におけるコミュニティ委員会のような物が立ち上り、区民自ら自分たちの区の事を考え作って行ける様になれば良いなと考えています。</p>	全体会
3	<p>現在大阪市で議論が始まった副首都・合区・総合区・特別区などの大きな構造改革に対しても、ごく近い将来、港区がどうなっていくか判らない状況下において、港区のビジョンを考えるとはどういうことか、ということも議論に加えて頂きたく考えております。</p>	全体会